

事業を支えるマザー工場

成長を支える製造資本

積極的な設備投資により技術・開発・生産体制を強化

三田工場のリニューアルや福知山事業所第2工場及び三田工場イノベーションセンターの建設により、生産体制の一新や増産体制構築のみならず、技術・開発部門の強化や研修施設の充実も図っています。また、新たな工場の建設においては環境に配慮した設計を取り入れ、CASBEEで高評価を取得しています。

流体制御技術を発信するマザー工場：三田工場

三田工場は、メカニカルシール、グランドパッキン、ガスケットなどの産業機器関連市場向けのシール製品の生産を担う他、研究・開発部門も設置した、マザー工場としての役割を有する当社の主力工場です。

2020年3月のリニューアル工事により最新鋭の工場に生まれ変わりました。



三田工場

コンセプト

- 合理的レイアウト、自動化・機械化、IT化による生産性の向上
- 労働環境、安全性、BCP実効性の向上
- 技術研修センター、分析センター、ショールームによる来訪者の信頼感・安心感の向上

三田工場イノベーションセンター

当社保有技術の複合・融合や産官学連携によって製品開発の強化やイノベーションを創出する拠点として、2023年10月に三田工場内にイノベーションセンターが竣工しました。

CASBEE (建築環境総合性能評価システム) Aランクを取得している他、屋上には自家消費型太陽光発電を設置しており、地球環境にも配慮した拠点です。

「製品開発フロア」「事務所フロア」「R&Dフロア」の3つのフロアで構成され、三田工場の多様な技術者を集結させることで総合知の創出と活用を図ります。



三田工場イノベーションセンター

コンセプト

- 革新的な製品をスピーディーに創出する場
- 新材料・新技術・新加工法を持続的に発展させる場

TOPICS

グリーンボンド発行について

環境改善効果のある事業に充当する資金の調達手段として、2023年12月に当社初のグリーンボンドを発行しました。

資金調達においても当社のESG経営の取り組みを発信し、ステークホルダーとのエンゲージメント強化に努め、持続可能な社会の実現を目指します。

名称	： 第1回無担保社債
社債の総額	： 100億円
資金用途	： ・福知山事業所第2工場 (CASBEE Sランク取得) の建設資金 ・三田工場イノベーションセンター (CASBEE Aランク取得) の建設資金

新たなキーテクノロジーの獲得

タンケンシールセーコウは、1955年の創業にあたってメカニカルシールの主要部品であるカーボンリングの国産化に成功した起源を有しています。以来、現在にいたるまでメカニカルシール及びカーボン技術をコア技術として発展してきました。

2023年4月に当社グループに加わったことは、新たなキーテクノロジーの獲得であり、これにより当社グループはメカニカルシールの心臓ともいべき摺動材のSiC (シリコンカーバイド) とカーボンの両方の材料技術を有し、内製化しているシールメーカーとなりました。

また、タンケンシールセーコウの自社開発製品である



タンケンシールセーコウ本社工場

ポーラスカーボンについては、グループ全体でのさらなる研究開発の推進、販路の拡大、販売チャンネル増などによる販売強化を図っていきます。

福知山事業所第2工場

電子機器関連市場向け製品のさらなる需要拡大に対応すべく、2023年に9月に福知山事業所第2工場が竣工しました。

環境に配慮した設計を取り入れたことでCASBEE Sランクを取得している他、屋上には自家消費型太陽光発電の設置を計画しており、地球環境に配慮した工場でもあります。

また、同規模工場をさらに3棟建設可能な拡張可能エリアを有しており、今後機動的に増強する計画です。



福知山事業所第2工場

コンセプト

- 生産能力の大幅アップ (最大80%増)
- 顧客からの厳しい品質要求への対応
- 新生産体制の構築によるコスト競争力の強化
- 開放感のあるつくりで当社技術を“魅せる”工場

大規模な工業用クリーンルーム

福知山事業所及び九州工場では、大規模な工業用クリーンルーム (空気中に浮遊する微粒子や微生物を限定されたレベル以下の清浄度に管理し、不純物やゴミを持ち込まないようにするための部屋) を導入しています。

当社では、クリーンルーム内の清浄度を監視し、クリーン度を常に適切なレベルに維持しています。

さらに福知山事業所第2工場では、天井から噴き出したクリーンエアを床から吸い込むダウンフロー方式を採用し、高いレベルのクリーン度を安定して得られる構造としています。今後も市場のクリーン化のニーズに応えていきます。



クリーンルーム